

技術資料 (Technical Data Sheet)
アケミカラーボンド P+ (AKEMI COLOUR BOND P+)

特質・特性

AKEMI カラーボンド P+はジェル状で、スチレンで溶解したエポキシアクリレート樹脂を基にした 2 液性の製品です。以下の品質によって区別されます

1. 即硬化性 (15-40 分)。
2. 速乾性。
3. 硬化物は研磨可能。
4. カートリッジシステムを使用して、簡単に投与および混合が可能。
5. カートリッジシステムは 6 分用と 12 分用があります。
6. 50 色以上の幅広い色を取り揃え、多くのクォーツタイプのシームレスな接着ができます。
7. 黄変しにくい。
8. テクノセラミックでも接着の強度が優れている。
9. 一般接着では (60-70°C)、薄被膜では (100-110°C) の耐熱接着に適している。
11. フードセーフで硬化後の製品は食品の接触による健康への害は無い(ドイツテスト機関による証済)。
ASTM D2369: 12g/L に準拠した COV;外部機関により確定された;Multipurpose
Construction Adhesives の LEED v4 EQc2 SCAQMD Rule1168 を満たす。

適応範囲

AKEMI カラーボンド P+は CaesarStone®, Silestone®, Zodiaq®, Corian®, 天然石, セラミック、大きいサイズのテクノセラミックのようなクォーツの接着で色を調節して使われます。(e.g. Dekton®, Lapitec®, Neolith®, Laminam®, Kerlite®, Maxfine)

使用方法

混合ノズルなし: カートリッジ装置のみです。

混合ノズル付き: カートリッジと混合ノズルで専用ガンにより同時に使用できます。

1. 接着する表面を完全に乾燥させ、表面をきれいにし、すこし粗面にする。
2. カートリッジから留め金はずし、カートリッジをガンに挿入し、両方の開口部から材料が出るまでグリップを働かせます。混合ノズルをしっかり締めてください。最初の 10 センチほどは使わないでください。
3. 混合ノズルを使用しない場合は両方の成分を十分に混合してください。
4. 混合したカラーボンド P+6 分は 20°C で 約 5-7 分間で作業を仕上げてください。カラーボンド P+12 分は 10-12 分で仕上げてください。
5. カラーボンド P+6 分であれば約 20-30 分後、カラーボンド P+12 分であれば 30-40 分後には次の作業

にとりかかることができます。(研削、研磨、掘削)

6. 暖かいと硬化が速まり、寒いと遅れます。
7. 使用した道具は AKEMI®Nitro Dilution で洗浄できます。

注意事項

1. AKEMI® Liquid Glove で手を保護してください。
2. すでに可視時間が過ぎたジェル状の接着剤は使用しないでください。
3. 硬化中、充填剤と熱の発性により収縮 (約 5-8%) が引き起こされるため、接着剤はできるだけ薄く (<1mm) 塗ってください。
4. 湿度や氷結に頻繁にさらされている接着部は、耐久性がなくなります。
5. アルカリ性建材への適度な接着力があります。(e.g コンクリート、コンクリートレンガ)
6. 硬化したカラーボンド P+はわずかに黄変する傾向があります。
7. 一度硬化したカラーボンド P+は溶剤でも除去できません。機械的に、または高温 (> 200°C/ 392° F) でのみ物理的に除去できます。
8. カラーボンド P+12 分は 20°C 以下の環境では使用できません。
9. 混合ノズルは AMEMI 専用ノズルを使用してください。
10. 使用後は混合ノズルをはずし、付属の留め具で閉じてください。新しい混合ノズルを締める前に、両方の開口部から材料が出ていることを確認してください。

技術データ

色:	複数 (50 数種類)	
比重:	約 1.10 g/cm ³	
可使時間/分	6 分タイプ	12 分タイプ
10° C	10 - 16	---
20° C	5 - 7	10 - 12
30° C	3 - 5	5 - 7
機械的性質:		
曲げ強度	DIN EN ISO 178:	70-80 N/mm ²
引張強度	EN ISO 527:	40-50 N/mm ²
圧縮強度	DIN EN ISO 604:	100-110 N/mm ²

保管期間

約 1 年密閉された低温場所での保管に限る。

健康と安全

本製品を取り扱うまたは使用する前に、製品安全データシートをお読みください。

重要な注意事項

上記の記述は技術開発と適応技術を基本としていますが、使用に当たっては多種多様の要因が考えられるので、まず、テストピースにて予備テストをしてから確認の上実際の使用をしてください。

